

ソーシャル「しげんカフェ」開店



ポイントを使って飲食できる「しげんカフェ」の店内

東京 精神障害者も就労

不要になった衣類などを持ち込むとポイントがもらえて、貯まったポイントでコーヒーなどが飲める。「しげん(資源)カフェ」と呼ばれる、そんな仕組みを採り入れた喫茶店が16日、都内にオープンした。精神障害のある人の働く場としつつ、地域の人が集まりやすい居場所をつくる。資源が循環する社会を目指す。

開店したのは「しげんカフェわくわく」。障害福祉制度による就労支援事業所ではない。運営するのはNPO法人わくわくかん(斎藤三理事長)。就労困難者を積極的に雇用する社会的企業「ソーシャルファーム」として、東京都の条例に基づき予備認証を受けた。店舗はJR浮間舟渡駅(北区)から徒歩8分の高架下にある。半分はリサイクルショップ、残り半分は客席数24の喫茶店。古着や食器などを1回持ち込むとスタンプカードに判が一つ押される。二つで100円分の買い物や飲食に充てられる。8人いるスタッフのうち3人は精神障害のある人で、本人の希望などに応じてリサイクル品の仕分けや値付け、喫茶の仕事に取り組み。「いろんな仕事を得意でできるのがこの店の強み。目標とする売り上げは1日5万、6万円(スタッフの

若畑省一さん)という。しげんカフェの仕組みは、愛知県津島市で2013年にスタート。市の環境局での勤務経験のある浅井直樹さん(69)が考案した。浅井さんが代表を務める一般社団法人「しげんカフェシステムズ」によると、この仕組みを採り入れた店舗は現在、全国に7カ所しかないという。ソーシャルファームは社会課題を解決する手法として都が条例を制定。今年3月に3社を認証、わくわくかんを含め25社を予備認証した。認証されると、5年間で最大8000万円の支援を受けられる。(福田敏克)

23
福祉 12/28
新
精神